



「授業を中心とした学校づくり研究事業」 大宮小学校編

GW前の4月28日(木)に村瀬公胤先生をお招きして、大宮小学校で授業研究会が行われました。午前中(3・4校時)全学級授業参観→5校時焦点授業(4年4組)→授業検討会(リフレクション)で進められた大宮小学校の授業研修会の様子をお伝えします。

☆午前中の授業参観から

3・4校時に各学級を3~5分間程度授業を参観しました。新学期スタートの重要な時期を先生方が丁寧にスタートしている印象を受けました。子ども達も落ち着いて授業を受けていましたが、その中でも子ども達が課題によって「友達と繋がり合いたい」と隣を見たり、後ろを見たりとする場面を見ることができました。村瀬先生もこれから授業をするにあたりこのような場面で教師が子ども同士を「繋げる」意識を持つことが重要だと仰っていました。

☆焦点授業から

【4年生算数(授業者:城間美津雄先生) 割り算の仕方を考えよう】

大宮小では算数の授業を「大宮小スタンダード」の流れで授業改善に取り組んできました。その流れの中で、今年度の校内研テーマを「『主体的・対話的で深い学び』へ誘う授業改善」とし、「1 換気の徹底と場に応じた活動」「2 聴き合いができる子どもたちに」「3 説明中心から課題中心の授業へ」という3つの比嘉校長の方針を受けて、城間先生から「子ども同士の学び合い」を狙った授業が提案されていました。落ち着いた雰囲気です直に課題に取り組む子どもたちと深い学びに誘おうと熱い想いで授業する城間先生を、多くの先生方が“子どもの学びがどのように進んでいるのか”児童の表情や発言に注目して見とっていました。



☆リフレクションから

授業参観者全員が一人40秒で授業の様子をふり返ることからスタートしました。その後、村瀬先生からの講話でした。その中で、本時で見た成果として「・つながることを喜びはじめた・お友達への心づかい・考える人になりつつある」一方でいくつか考えたいこととして「・45分間考え抜いた子は誰か・本時のめあてに沿った学びができた子は誰か・グループに1枚の紙(発表用紙)で、救われた子・救われなかった子は誰か」と先生方に問いかけ、授業動画を利用して本時の授業のいろんな場面を例にして授業改善に向けた提案をされていました。

☆ 大宮小学校の先生方、多くの学びをありがとうございました。

